

第21回日本シェーグレン症候群学会学術集会開催

平成24年9月7日(金)、8日(土)の2日間、第21回日本シェーグレン症候群学会学術集会を開催させていただきました。テーマは、『シェーグレン症候群とIgG4関連疾患 スペシャルティーマの枠を越えた新しい出会い』とし、これらの疾患を取り扱う臨床各科のコミュニケーションを最大の目標としてプログラムを計画しました。本会は、内科、眼科、歯科、口腔外科、耳鼻科、皮膚科、婦人科、小児科など、



さまざまな専門領域が関与するため、会長を引き受けたものの、他科の先生方のご参加をどのように増やし、どのように楽しんでいただくか、その一方で、参加の少なかった眼科の先生方のご参加をどのように促すかといったことさえ、最後まで暗中模索の状態で、準備期間中、非常に不安な日々を過ごしました。資金集め、眼科医へのアナウンス、チラシ・ポスター・プログラム作り、懇親会のアトラクションなど、一つ一つに知恵を絞り、機会あることにアナウンスして、とにかく、できる限りの努力をしました。しかし、これまでさまざまな形で一緒に仕事をさせていただいた多くの皆様が、本当によく



助けてくださり、この難局を乗り越えることができました。思いをこめたチラシやポスターは、高いご評価をいただきましたし、特別講演にお招きした徳島大学の高濱教授は、本当に素晴らしいご講演をしてくださいました。また、2つのシンポジウム『シェーグレン症候群 基礎と臨床の最前線』、『シェーグレン症候群の診断基準を考える』では、各シンポジストの先生方がテーマに即した中身の濃いご講演をしてくださいました。蓋をあけてみると、参加者数においてこれまでの記録が6割増しになるという金字塔を打ち立てることができ、多くの心温まる賞賛のお手紙を頂戴して、これまでの全ての苦勞が全て吹き飛びました。木下教授の励ましのお言葉と教室員の助けが大きな力となりました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。(横井則彦)

新時代のアイバンクを目指して

京都府立医大アイバンクは、大学の法人化およびアイバンク愛の光基金管理会からのご支援により新時代に向けたアイバンク体制へと大きな変化の節目を迎えています。平成24年7月1日より名称をより親しみやすい「京都府立医大アイバンク」と変更しました。また広範囲の活動を目指すべく平成24年12月から近畿・四国・中国地方の中核アイバンクとして新しいスタートをきっています。また、(公財)滋賀県健康づくり財団や(公財)

兵庫アイバンクとの連携によりアイバンクネットワークを構築し、新しい角膜内皮移植に対応したドナー角膜の提供や総合的なアイバンク業務の向上・発展を目標とした体制を整備してきています。これからも献眼活動および移植医療の発展に寄与できるよう

に体制を充実化していますのでご支援をよろしくお願いたします。
(京都府立医大アイバンク)



新しいアイバンク作業室



角膜内皮移植用プレカットドナーの作成

“絆、そして眼科医療の未来へ”学術シンポジウム

—京都府立医科大学眼科学教室 木下 茂教授 開講20周年記念講演会—開催

木下教授が眼科学教室を主宰されて20年がたち、その節目として記念シンポジウムが平成25年3月10日にウエスティン都ホテルで開かれました。Be internationalを綱領に日本はもとより世界の人人々の『絆』を大切にしながら教室の発展に尽くしてこられた木下教授の生き方を写して『絆、そして眼科医療の未来へ』が今回のテーマとなりました。参加者



は、教室同窓会の明交会、眼科医会、眼科学会、学内教授、歴代学長の諸先生方、企業のCEOやR&Dのリーダーの皆様など、総勢340名に及びました。プログラムは、第一部(教室のclinician scientistによる研究プロジェクトおよび大型競争的研究費等によるトランスレーショナル研究プロジェクトの発表)、第二部(招待講演および特別講演)、第三部(懇親会)から構成され、第二部では、厚生労働省から今井先生、共同研究大学からは、クアントック教授(カーディフ大学)、クルーゼ教授(エアランゲン大学)、バランドン教授(スイス連邦工科大学)、理化学研究所のプロジェクトリーダーである笹井先生にお越しいただき、各領域の最先端のご講演をいただき、最後に、木下教授により眼科医療の未来を見据えた夢のあるお話をいただきました。第三部の

懇親会では、吉川学長にお祝いのメッセージを頂戴し、親交の深い先生方を木下教授が壇上に迎えられてお話をいただきながら、新しい形のアートと音楽のアトラクションも華をそえて、会場は、終始、笑いの絶えない和やかな雰囲気につつまれていました。振り返ってみると今回のシンポジウムは、教室開講20周年記念にとどまらず、ご参加いただいた全ての皆様との絆をさらに深める有意義な時間になったのではないかと思います。本会にご参加いただいた全ての皆様に心よりお礼申し上げますとともに、教室との末永きご親交をよろしくお願いたします。(横井則彦)



編集 後記

お待たせいたしました。Eye Treat革命第16号をお届けします。これまでと同様、本号でも、長足の進歩を遂げている眼科の革新的治療や府立医大眼科のアクティビティの情報が満載です。隅々までお楽しみください。編集部では、みなさまのご意見を広く募集しております。今後とどうぞよろしくお願申し上げます。(編集部)
EYE Treat 革命 編集部(稗田 牧、永井淑子) 京都府立医科大学 眼科 〒602-0841 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465 TEL: 075-251-5578 FAX: 075-251-5663